



IUFRO-J NEWS

No. 28 (1986.5)

第18回ユフロ世界大会に向けて

ユフロ-J議長 難波宣士

京都での第17回大会が盛況裡に終わって早や5か年が経ちました。

いよいよ本年9月7日から約2週間にわたって開催される第18回大会が目前に迫って参りました。参加される会員の皆さんは、多忙のなか、最終の準備にとりかかっておられる事と思います。

大会事務局からの情報によれば、日本からの参加予定者は100名をこし、外国からの参加者数としてはアメリカについて第2位であると聞いております。ユフロ評議員会への日本代表である上飯坂氏、理事である浅川氏をはじめ、各部会の役員も多数出席され、また各会場での多彩な研究発表は、日本の林業・林産業についての研究活動の評価をさらに高め得るものと信じております。

この一大イベントに対し、ユフロ-Jとしても特別の行事を行うべく昨年からのいろいろ協議を重ねておりました。本年2月末には、ムリンシュク・ユフロ会長から、国際協力事業団を通して、開発途上国からの有能な研究者を大会に参加させるための経費支援方の要請も届きました。

この要請もふまえて、本年4月の機関代表会議で種々

論議を致しました。その結果、別記の議事録の通り、ユフロ-Jとしては、約1,100万円の特別会計のなかから500万円を限度に支出することとし、その経費によって、参加されなかった会員の方々に対するユーゴ大会の概要の紹介、とくにエクスカージョンの内容をお知らせする資料を作成するとともに、ユフロ会長からの申入れに対しても、約100万円を目途に支援することと致しました。

私費参加を余儀なくされる方が多いことを考えますと、この決定に疑問をもたれる方もあろうかと思えます。しかし、開催国の経済事情や諸外国の支援状況、さらに、国内の他機関には支援し得るところがないことなどから判断して、ユフロ-Jとして会長からの申入れを全く無視するわけにはいかないとの結論になった次第です。

ほぼ1年分の会費を支援することとなりますが、国際社会に占める日本の地位もお考え頂いて、会員の皆様のご賛意をお願い致しますとともに、大会に参加される方々のご活躍を心から祈ってやみません。

第18回世界大会の登録について

ユーゴスラビア・リュブリャナで開催される第18回ユフロ世界大会まであと3か月余となりました。参加される方は、IUFRO-News No. 51に同封されている登録

用紙(A, B)を使って6月15日までに登録して下さい。これが本登録となりますので、仮登録をされている方も必ずおだし下さい。

チューリッヒ理事会報告

浅川 澄彦

着いた日はコートが邪魔になったほど予想外に暖かかったが、翌朝窓のカーテンを開けると、うっすらながら雪化粧にかわっていたのに驚かされた。時にこんなこともあるという話であったが、それから3日間チューリッヒはずっと粉雪が舞い続けていた。オーストリアからきていた事務局長の話では、ウィーンも雪とのことで、欧州全体に寒波がきていたようであった。そんな底冷えのするチューリッヒで、4月10日～13日の間、第18回理事会が行われた。会場は郊外にあるスイス国立林業試験場で、それほど大きくはないが、昨年が100周年だったという山緒ある研究所である。ここの場長ポサード博士が現在ユフロの会計理事をつとめておられる。参加者は会長、副会長以下いわゆる理事会メンバーが18名、FAOからの理事の代理、SCDC、副副会長2名、会長、副会長の秘書役の総勢24名であった。

今回の理事会は、9月の第18回ユフロ世界大会の準備が中心で、とくにいわゆる5役+1名で構成される財政・企画委員会、副会長と6部会長で構成されるプログラム委員会は多忙であった。期間が短かったこともあって、一部の委員会が全体会議とだぶったりしたが、以下、全体会議にはかられた主な議題の概要をご紹介します。

(1) 第18回ユフロ世界大会：会議の冒頭に、その週のはじめに各メンバー機関に発送したという IUFRO-News 51号が配られた。すでに皆様もみておられるとおり、エクスカーションも含めて大会の骨格が掲載されており、正式の登録用紙がはさみこまれている。特別講演が5題になり、演者にも一部変更があった。セカンドサーキュラーはゲラの段階で、理事会後成可く早く印刷して発送するつもりであるという弁明があったから、遅くとも本誌がお手元に届く頃には皆様のところにも送られるものと期待している。

これまでのところ登録者は約950名（アジア：216、ヨーロッパ：456、北米：185、アフリカ：58、オセアニア：23、ラテンアメリカ：10）、同伴者約210名、登録者の約半分がエクスカーションに参加する意志を表明しているが、コースによる偏りがあり、事務局長は頭をかかえていた。なおすでにお気付きのように、ヨーロッパでとくに話題となっている森林衰退問題をトピックとする

No. 20の新しいコースが追加された。肝心の研究集会の編成が、京都大会の時よりもむしろ遅れており、これがセカンドサーキュラーの遅れているもっとも大きな理由のようである。ポスター発表のスペースは400題をみこんでいるが、これまでのところまだ半分しかないとのことで、締切りを4月末まで延しているという説明であった。

(2) 第18回世界大会へ参加が期待される発展途上国研究者の助成：かねてから会長を中心に財源の発掘が試みられているが、世界的な経済不況のため必ずしも順調に進んでいない。4月はじめまでに NORAD（ノルウェー）10名、ADAB（オーストラリア）6名、UNESCO 3名、FAO 若干名の助成が内定している旨が紹介された。会議の席上、IUFRO 日本委員会が約5,000ドルを拠出する用意がある旨を報告、会長は心からの謝意を表わされた。

(3) 次期役員：会長候補はすでに昨年の理事会でできていたが、副会長、地域理事はいろいろな要因があって今回も確定にはいたらなかった。一方、部会長については第5、6部会が留任、あとの4名は退任、第1部会はオズワルド氏（現同副副会長、フランス）、第2部会はバーレイ氏（現同副副会長、英）、第3部会はニルソン氏（現 S3.01 リーダー、スウェーデン）、第4部会はカイザー氏（現 P4.08 リーダー、米）という顔ぶれになる。副副会長は、第3部会は全員留任する模様であるが、あとは候補者名はあげられたが引き続き検討されることになった。

(4) ユフロ会員の現況：昨年来、事務局で会員機関の研究者数を調査しているが、3月末の時点で93%の機関が回答しており、それらを合計すると約15,500人に達している。1976年には約8,700人であったから、この10年に約2倍になったことになる。これは加盟機関が増加したことにもよっているが、機関に所属する研究者が増えたことにもよっている。単純に考えると、研究者数の増加は会費の増収につながるわけであるが、会費納入は必ずしもアンケートに記載した数によっていないところに問題があるらしく、事務局長はこの点の改善に努力したいと述べた。

(5) ユフロの活動についての検討：先進国とくにヨーロッパにおける森林の衰退、および熱帯林の破壊という二つの面での危機を回避するためにユフロは何をなすべきかという問いかけがなされた。後者については、すでに途上国の研究促進のための特別プログラムが進められているので、前者に関連して大気汚染の特別のプロジェクト・グループ (P. G.) を創設し、適任のリーダーを指名して、部会を超えた強力な活動を進めることとなった。もちろん、本来 P. G. は部会間にまたがる問題のためにつくることになってはいるが、特にこの P. G. については部会ごと、あるいは各国、各機関ごとに行なわれている研究のコーディネーションに力を入れることが申合わされた。

(6) 途上国のための特別プログラム：前号に鈴木健敬氏が紹介して下さったように、この特別プログラムの第2弾のワークショップが去る1月にナイロビで開かれたが、このプログラムのコーディネータ (SCDC) からその概要と、次のラテンアメリカ版ワークショップの計画が紹介された。後者は明年 (1987年) 4月に、ペルーのウァラス (Huaraz) で開催される予定で、すでに SCDC を中心に具体的な計画が練られている。

1984年8月にスタートした特別プログラムは、予定より遅れているとはいいながら、とにかく着々と進行しており、研究目標の整理とそれを推進するためのガイドラインができたあとは、いろいろな援助機関からの財源をさがし、できるだけ重複を避けながら研究を促進していくことを計画している。このような事業の調整役を現在のユフロ事務局に求めることはむずかしいため、農業研究の国際的な調整機構である CGIAR (Consultative Group for International Agricultural Research) のよう

な、小規模ながら効率的な組織を創設することが提案された。提案では、はじめの5年間はユフロ傘下で活動し、その後は独立した組織とすることになっている。今回は必ずしも十分に論議を尽くすことができなかったが、できるだけ早く発足させたいようで、次期を背負われる副会長バックマン教授 (オレゴン州立大) は、オーバーヘッドを使って熱っぽく提案内容を説明された。

(7) ユフロ学術賞：世界の28か国から推せんされた候補者は68名に達したが、制限年令 (受賞当日で満45才未満) 以上であったり、書類不備な方がいたり、選考の対象になったのは56名であった。結局、米国 (2名)、カナダ、日本、マレーシア、オーストラリア、ポーランド、デンマーク、スウェーデン (順不同) からの9名の受賞が満場一致でできた。

(8) 第19回世界大会：カナダからでている理事から、同国が引受ける用意がある旨の意志表示があり、1990年の8月から9月に、モントリオール、トロント、バンクーバーの何れかで開催される見通しとなった。ただ、次の世界林業会議が一応1990年とされており、FAOがこの開催を決定した場合には変更を余儀なくされることになろう。現在のところ、FAOの決定は1987年に持越されると見られており、開催年も遅らされる可能性が大きいようである。

(9) 名誉会員：1977年から約2期にわたって第5部会長をつとめられたオーストラリア CSIRO のヒリス博士が推せんされ、満場一致で承認された。

以上のほか、1985年の決算報告、1987年の予算概要説明があり、また、第18回大会での宣言についても小委員会が作成した素案について討議が行なわれた。

第18回世界大会エクスカージョン仮申込み状況

(昭和61年4月5日現在)

No. 1	30名	No. 11	18名
No. 2	28	No. 12	47
No. 3	38	No. 13	5
No. 4	98	No. 14	16
No. 5	31	No. 15	12
No. 6	18	No. 16	46
No. 7	57	No. 17	12
No. 8	46	No. 18	27
No. 9	3	No. 19	11
No. 10	25		

(No. 4 は申込み多数のためバスを2台にするそうです)

第18回ユフロ世界大会情報

このほど到着いたしました IUFRO News No. 51 世界大会に関する情報をいくつかご紹介いたします。
(1/1986) の中から、ユーゴスラビアで開かれる第18回

主要行事日程

時刻	9月7日 (日)	9月8日 (月)	9月9日 (火)	9月10日 (水)	9月11日 (木)	9月12日 (金)	9月13日 (土)	9月14日 (日)
8.00								
9.00			特別講演	特別講演	特別講演	特別講演		
10.00								
11.00	登 評議員会	登 開会式	部会間合同 集会 A, B	部会間合同 集会 C, D		1-6部会集会	閉会式	エクスカ ーション (20コース 4-7日間)
12.00								
13.00								
14.00	録	録	ポスター セッション		ポスター セッション			
15.00								
16.00				社 交 行 事	評議員会	社 交 行 事	理 事 会	
17.00		1-6部会 集会						
18.00								
19.00	歓迎 パーティー	歓迎レセ プション	関連 集会	特別 講演	関連集会	さよなら パーティー		

特別講演々者の横顔

Dr. Nyle C. BRADY (米国): The role of research in arresting forest degradation
国際イネ研究所 (IRRI) 所長, コーネル大学教授, ニューヨーク州立農科大学研究部長, 農務省科学教育部長を歴任, 現在 USAID 科学技術担当 Senior Assist. Administrator

Dr. Gro Harlem BRUNDTLAND (ノルウェー): Environment and foresters' responsibilities
環境保護相, 首相 (1981~'82) を歴任, 労働党の指導者の一人で, 現在は Commission on Environment & Development (ジュネーブ) 総裁, 医学博士, 女性。(去る5月10日の新聞によると, 再び首相に返り咲いた。)

Prof. Hoimar von DITFURTH (西独): The global nature of the ecological crisis and its evolutionary and biological background

精神病学, 神経学の教授であるが, 20年以上にわたって作家としての活動も続け, 多くの著作をあらわしている。1980年には作家活動にたいして UNESCO Kalinga 賞を受賞。

Prof. Dr. Anton TRSTENJAK (ユーゴスラビア): Anthropological approach to forests

リュブリャナ大学神学部哲学, 心理学の教授, とくに産業心理学, 経済心理学, 色彩理論の心理学に関連した生態の心理学などの研究に携わる。

この大会では初めての試みとして、9月9日(火)夜7時から一般に公開の特別講演(下記)を企画している。

Mr. Jim RUSSEL (米国): Indigenous people...Care-takers of the earth

ワシントン州トベニッシュのヤキマ族に属し、核廃棄物計画委員、ワシントン州倫理委員会及び高レベル放射性廃棄物管理のためのワシントン州諮問委員会の州知事指名委員、世界土着民研究センター理事、インディアン保護地区国家会議の副議長などをつとめる。

ポスターセッション

○日時: 9月9日(火) 13:30-15:00

9月11日(木) 13:30-15:00

○場所: 会議室 P1 および P2

○発表ポスター論文の題は登録時に配布。

○ポスターはそれぞれ発表翌日の夕方まで掲示される。

ソーシャルプログラム

スタディーツアー(半日コース)

1. 9月10日(水) 14:00~21:00 費用30米ドル

コース1: 自然と美術(国立公園と美術館見学)

コース2: 小規模所有の森林 地域の歴史と文化

コース3: 農業-林業-建築-スロベニア見学

コース4: 高山の相観と野生生物

コース5: カルスト見学

コース6: スロベニアにおける高山旅行

2. 9月12日(金) 14:00-19:00 費用30米ドル

コース7: ヨーロッパ横断自然歩道開通式: E7-YU

-大西洋-黒海線(ユーゴ区間)

なお、この他エクスカージョンなどについての詳細は IUFRO-J 事務局までお問合せ下さい。(事務局)

部会間合同集会

- | | |
|------------------------------|--------------------|
| A. 社会経済的発展のための林業研究 | 9日(火) 10:00-12:00 |
| B. 木材資源の性格の変化と将来の社会発展との関わり合い | 9日(火) 10:00-12:00 |
| C. 大気汚染物質の沈着 | 10日(水) 10:00-12:00 |
| D. 林業とエネルギー | 10日(水) 10:00-12:00 |

リュブリャナ大会のためのメモ

リュブリャナ大会まであと4か月弱となりましたので、余白をかりましてユーゴスラビア原産の主な林木のスロベニア名をご紹介します。1982年4月の理事会の折に、リュブリャナ大学林学科の Dr. Sonja HORVAT-MA-

ROLT がつくってくれた対照表(英名は筆者が追記)によりますが、ここでいう原産がスロベニアに限っているものか、ユーゴスラビア連邦全体なのか確認しそこないました。

学名(英名)

[針葉樹]

Abies alba (European silver fir)
Picea abies (Norway spruce)
Larix europaea (European larch)
Pinus nigra (Austrian pine)
P. silvestris (Scotch pine)
P. peuce (Balkan pine)
P. heldreichii (Heldreich pine)
P. mugo (Swiss mountain pine)
P. halepensis (Aleppo pine)
Abies borisii regis
Picea omorika Pančić (Serbian spruce)

スロベニア名

^{ナツツ}navadna jelka = jelka (イェルカ)
^{スムレカ}navadna smreka = smreka
^{エウロプス}evropski macesen (マツェセン)
 črni bor (チュルニ ボル)
 rdeči bor (ルデチ ボル)
^{バルカン}molika = balkanski bor
^{ベルカ}munjika = belkasti bor
 rušje (ルシエ) = planinski bor
 alepski bor
^{ボリス}borisova jelka
 Pančićeva (パンチチエバ) smreka = omorika

〔広葉樹〕

Fagus silvatica (European beech)
F. moesiaca (Balkanian beech?)
Carpinus betulus (European hornbeam)
Ostrya carpinifolia (European hophornbeam)
Quercus petraea = *Q. sessiliflora* (durmast oak)
Q. robur = *Q. pedunculata* (English oak)
Q. cerris (European turkey oak)
Acer pseudoplatanus (planetree maple)
A. campestre (hedge maple)
A. platanoides (Norway maple)
Tilia parvifolia = *T. cordata* (littleleaf linden)
Fraxinus excelsior (European ash)
Ulmus montana = *U. glabra* (Scotch elm)

navadna bukev = bukev
 mezijska bukev
 beli gaber
 črni gaber
 graden
 dob
 cer (ツェル)
 gorski javor
 poljski javor
 ostrolistni javor
 malolistna lipa
 veliki jesen (イエセン)
 gorski brest

スロベニア名に使われている形容詞のうち手元の小さい辞書で分ったものだけをひろいますと、navadna (普通の), evropski (ヨーロッパの), črni (黒い), rdeči (赤い), planinski (アルプスの), beli (白い), gorski (山の), poljski (平地の), malolistna (葉の小さい), veliki (大きい)です。

ところで、ユーゴスラビアには3つの公用語——セルボクロアチア語(正確にはセルビア語とクロアチア語に分かれる)、スロベニア語、マケドニア語があるそうです

が、民族構成をみるとセルボクロアチア語が過半を占めるようです。いずれもスラブ語系で近縁なはずですが、樹種名をみてもいくらか異なります。たとえば、ヨーロッパトウヒ(ス)smreka(セ)smrča スムルチャ、ヨーロッパモミ(ス)jelka イェルカ(セ)jela イェラ、トネリコ類(ス)jesen イェーセン(セ)jasen、シデ(ス)gaber(セ)grab [(ス)はスロベニア語、(セ)はセルボクロアチア語]などですが、一方、bor マツ類、topole ポプラ、cer カシの一種などは同じです。(浅川)

昭和61年度 IUFRO-J 機関代表会議

61年4月5日、宇都宮大学農学部大会議室において機関代表会議が開催され、次のことがらが報告、協議、決定された。

出席者：機関(代表または代理)(順不同、敬称略)
 北大(霜島)、岩手大(石橋)、山形大(中島)、東大・林(浜谷)、宇都宮大(薄井)、東京農大(紙野)、農工大(塚本)、日大(片岡)、新潟大(小林)、静岡大(岩川)、名大(鈴木)、三重大(永田)、京大・林(佐々木)、島根大(三宅)、琉球大(大宜見)、関東林育(古越)、日林協(松井)、国立林試(難波議長、浅川幹事長、田淵主事)
 議事：

1. 昭和60年度事業報告

- (1) 幹事会の開催：昭和60年5月29日(IUFRO-J News No. 25, p. 6 参照)
- (2) ユフロ評議員会への代表および代理の決定：ユフロ本部からの要請により、文書連絡により、代表として上飯坂実氏、代理として浅川澄彦氏を決定

し、事務局に報告。

- (3) IUFRO-J News の発行 No. 25, 26, 27 (各1,300部)
- (4) IUFRO 理事会(昭和60年8月11-17日、マレーシア、クアラルンプール)出席旅費の一部の助成。理事会報告は IUFRO-J News No. 26 のとおりである。
- (5) 前記の幹事会の決定にもとづき、第18回ユフロ大会のためのツアーの企画を林業科学技術振興所に事務委託するとともに、情報収集に協力した。
- (6) 会員の現況

A 会員	31機関	975名(内学生4名)
B 会員	12機関	15口
C 会員		5名
2. 昭和60年度会計報告
 - (1) 昭和60年度一般会計収支決算報告
 - (2) 昭和60年度特別会計収支決算報告

- (3) 昭和60年度会計監査報告
 湯本和司監事(代)から別掲の通り、適正で異状のない旨報告があって承認
3. 昭和61年度事業計画及び予算案
 別掲の通り承認
4. 第18回ユフロ大会対応について
 前掲の昭和60年5月の幹事会でもこのことについて予備的な話し合いがもたれたが、いよいよ大会が近づき、参加者の概況もわかり、また新たな状況もでてきたため、それらをふまえて、特別会計による事業内容を検討した結果、次のような結論を得た。
- 1) なるべく特別会計の資金を保税すべきであるという意見を尊重し、およそ500万円の枠の中で対応のための事業を考える。
 - 2) 前記の枠の中で次のことを行う。
 - (i) 発展途上国からの参加者への支援(これにつ

いては、助成を要する71名のリストをつけて、ユフロ会長から先進各国の援助機関に要請がでていますが、わが国ではJICA総裁あてに要請がきており、JICAからIUFRO-Jに申入れがきたものである)。およそ100万円をあてることとし、助成の方法について本部と接衝する。

- (ii) 第18回ユフロ大会の概要をIUFRO-J News(増刊も考慮)に掲載。このため、本大会に参加するユフロ役員(WP, SG, PG, Division, EB, IC)を主体に取材を依頼し、旅費の一部を助成。
- (iii) 上記以外の方で、本大会に参加して発表される方への支援も検討する。

以上の方針に沿って事業を進めるため、できるだけ早く参加者の確認を行い、助成の具体策を決定する。

昭和60年度一般会計収支決算書

(61年3月25日現在)

(収入の部)

科 目	収入予算額	収入決算額	備 考
前年度繰越金	821,311	821,311	
会 費			
59年度未納分	63,000	65,000	2大学で各1名増
60年度会費			
A会費	973,000	530,000	
B会費	75,000	30,000	会費収入 計 629,000 (1名61年度分含む)
C会費	4,000	4,000	
雑 収 入	5,000	7,307	
合 計	1,941,311	1,457,618	

昭和60年度一般会計収支決算書

(支出の部)

科 目	支出予算額	支出決算額	備 考
情 報 活 動 費	615,000	447,500	IUFRO-J News 印刷代 No. 25, 26, 27 各々1,300部
会 議 費	90,000	11,200	幹事会
旅 費	254,000	242,280	第17回出席旅費補助, 幹事会
雑 費	182,311	6,280	
文房具代等		350	
切手代		4,710	
払込手数料		1,220	
子備費	200,000	0	
特別会計へ繰入れ	600,000	0	
合 計	1,941,311	707,260	

収入決算額 1,457,618 支出決算額 707,260 差引残高(次年度繰越金) 750,358

昭和60年度特別会計経理決算書

科 目	取 入 額	支 出 額	備 考
前年度繰越金	10,234,812	0	内訳 1年定期 9,906,123 半年定期 774,889
利 息	446,200	0	
計	10,681,012	0	

昭和60年度会計監査報告

本会の一般会計収支決算、特別会計収支決算ならびに経理簿冊、預金通帳、現金等会計に関し詳細監査したところ適正に管理されていると認め、ここに報告します。

昭和61年3月31日

監 事 湯 本 和 司

昭和61年度一般会計予算(案)

(収入の部)

科 目	金 額	備 考
前年度繰越金	750,358	
会 費		
60年度未納分	488,000	
61年度会費		
A 会費	973,000	うち学生(500円/人)4名
B 会費	75,000	
C 会費	3,000	C会員5名 うち2名前納
雑収入(利息等)	5,000	
合 計	2,294,358	

昭和61年度一般会計予算(案)

(支出の部)

科 目	金 額	備 考
情報活動費	615,000	IUFRO-J News 印 180,000×3=540,000 送 500×50×3= 75,000
会 議 費	50,000	機関代表会議
旅 費	250,000	理事会出席旅費補助
雑 費	79,358	
予 備 費	100,000	
特別会計へ繰入	1,200,000	60年度及び61年度分
合 計	2,294,358	

IUFRO-J NEWS No. 28 昭和61年5月25日

編集・発行：国際林業研究機関連合日本委員会事務局